

平成 30 年度 寄贈作品紹介（作家別）

作家名	<p>島田章三（しまだ しょうぞう） 1933（昭和 8）～2016（平成 28）</p> <p>1933（昭和 8）年神奈川県浦賀町（現横須賀市）に生まれる。東京藝術大学在学中の 1957 年に国画会に初出品した《ノイローゼ》で国画賞を受賞。1958 年東京藝術大学油画科卒業。1961 年国画会会員に推挙される。1967 年《母と子のスペース》で第 11 回安井賞を受賞。1968 年愛知在外研修員として渡欧。1980 年東郷青児美術館大賞受賞。1990 年第 8 回宮本三郎記念賞受賞。1999（平成 11）年日本芸術院賞を受賞し、日本芸術院会員となる。2001 年～2006 年愛知県立芸術大学学長をつとめる。2004 年文化功労者となる。2001 年～2007 年愛知県立芸術大学学長。2009 年旭日重光章受賞。2007 年～2011 年横須賀美術館館長をつとめた。</p>	
作品名 制作年 技法材質 寸法 (cm)	<p>階段のコンポジション （油彩）</p> <p>2013 年（平成 25 年）</p> <p>油彩・画布</p> <p>130.0×162.0</p>	
作品名 制作年 技法材質 寸法 (cm)	<p>らせんかいだんとうみ （油彩）</p> <p>2015 年（平成 27 年）</p> <p>油彩・画布</p> <p>95.0×130.3</p>	

「島田章三版画集」1972年（昭和47年）6点組

作品名／技法材質／寸法 (cm)

花をいける
(版画)

孔版、手彩色・紙

20.0×14.5



猫と少女
(版画)

リノカット・紙

23.0×17.0



浴后
(版画)

エッチング、アクアチント・紙

22.5×14.5



採果
(版画)

エッチング、アクアチント・紙

23.0×16.0



乗馬
(版画)

リトグラフ・紙

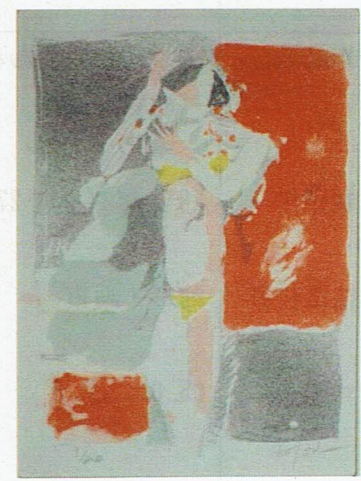
23.0×17.0



海辺脱衣
(版画)

リトグラフ・紙

22.0×17.0



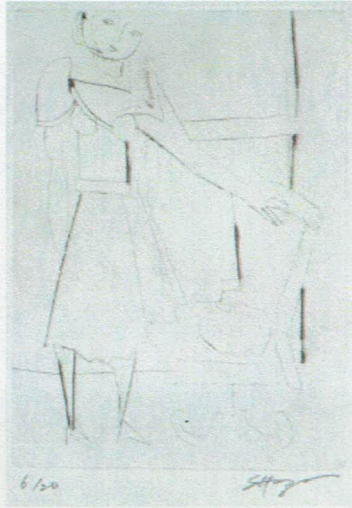
『線で生れた女たち 島田章三版画集』1975年（昭和50年）6点組

作品名／技法材質／寸法 (cm)

椅子
(版画)

ドライポイント・紙

21.8×15.7



盛花
(版画)

ドライポイント・紙

21.8×15.7



読書
(版画)

ドライポイント・紙

21.8×15.7



灯台
(版画)

ドライポイント・紙

21.8×15.7



化粧
(版画)

ドライポイント・紙

21.8×15.7



花の鉢
(版画)

ドライポイント・紙

21.8×15.7



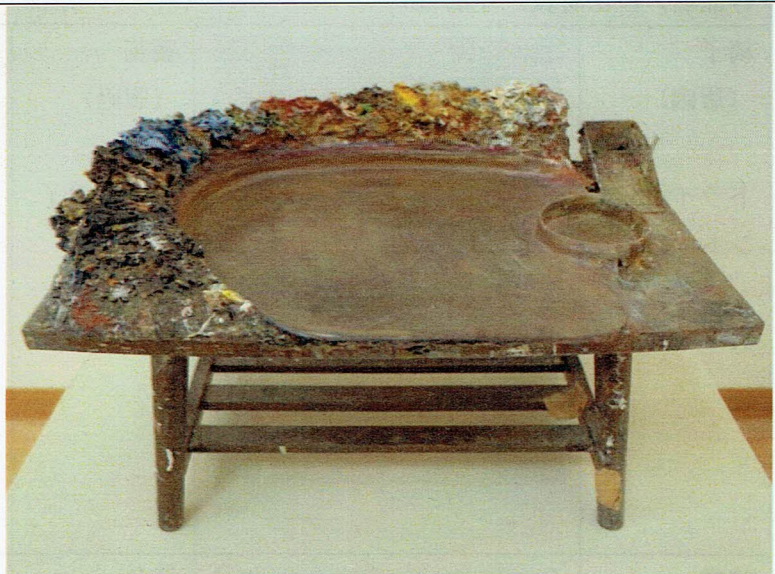
(資料) 島田章三使用の道具類

寸法 (cm)

島田章三使用のパレット

(資料)

38×60×39





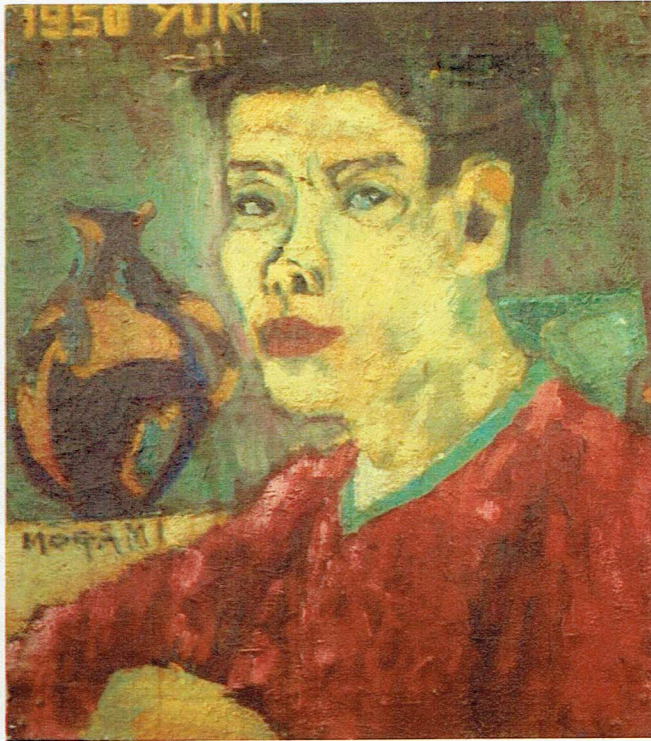
島田章三使用のイーゼル


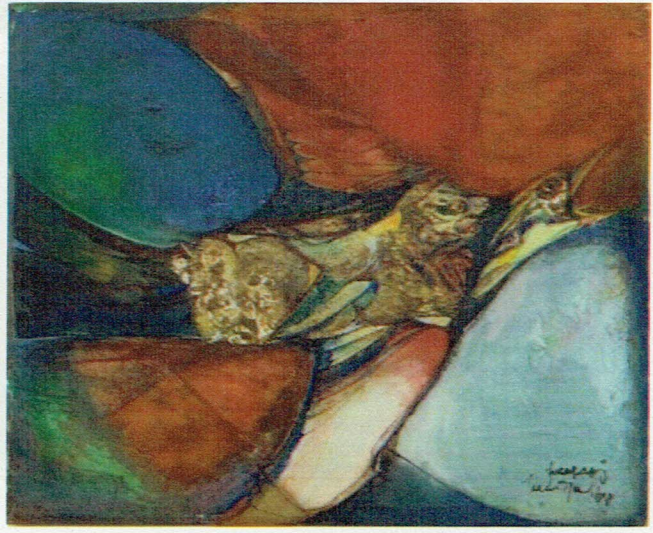
(資料)

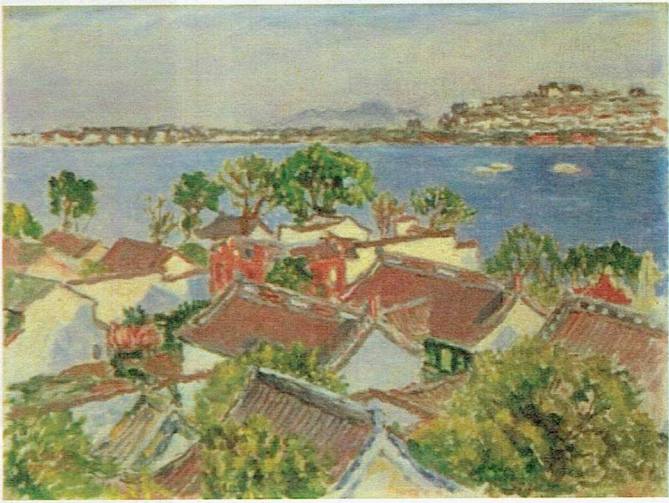
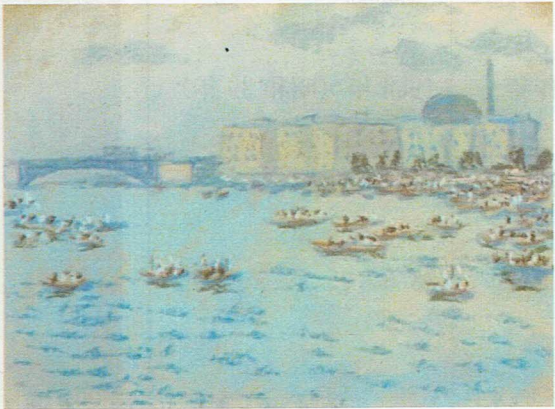
150×58.5×60



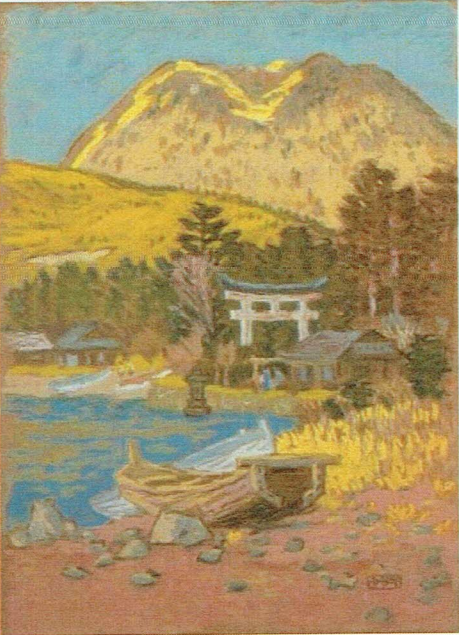
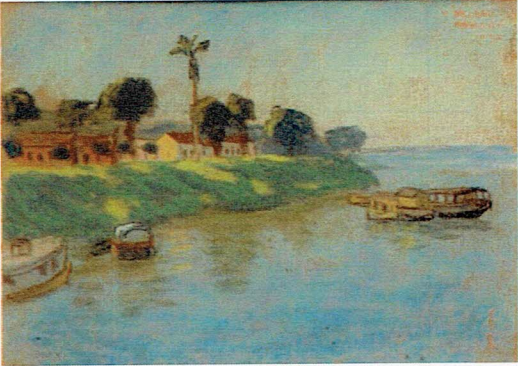

作家名	<p>島田鮎子（しまだ あゆこ） 1934（昭和9）～</p> <p>東京に生まれる。1958（昭和33）年東京藝術大学油画科卒業、1962年同専攻科修了。同じ年の12月に、大学でともに学んだ島田章三と結婚した。1966年から国画会会員。また同年、夫・章三が愛知県立芸術大学で教職についたことにともない愛知県に転居。1968年から1年間、夫の在外研修に同行してヨーロッパに滞在し、帰国後は再び愛知に住んだ。国画会展のほか、個展も積極的に行い、1994（平成6）年愛知県芸術文化選奨文化賞受賞、1997年安田火災東郷青児美術館大賞受賞、2000年紺綬褒章受章など、受賞歴も多数。キュビズム的な分割線や、シュルレアリスムの作品に見られるコラージュ技法などを取り入れ、穏やかながらも同時代性を感じさせる絵画を制作している。</p>	
作品名	<p>白い門のある風景 （油彩）</p>	
制作年	1975年（昭和50年）	
技法材質	油彩・画布	
寸法 (cm)	112.1×145.5	
作品名	<p>ロッキングチェアの人 （油彩）</p>	
制作年	1984年（昭和59年）	
技法材質	油彩・画布	
寸法 (cm)	130.3×162.1	

作家名	<p>最上壽之（もがみ ひさゆき） 1936（昭和 11）～2018（平成 30）</p> <p>神奈川県横須賀市に生まれる。光風会の研究所に通ううち、彫刻家を目指すようになる。1960（昭和 35）年東京藝術大学彫刻科を卒業。東急百貨店宣伝部や広告代理店オリオンに勤めるかたわら、モダンアート協会を中心に作品を発表する。1970年にオリオン、モダンアート協会を辞めた後は、武蔵野美術大学の教員を幾度か務めながら活動。1974年より1年間、文化庁在外研修員として渡欧。1975年《コテンパン》で第4回平櫛田中賞を受賞。その後、宇部市で開催された第7回、第8回現代日本彫刻展でそれぞれ毎日新聞社賞、東京都美術館賞を受賞。2003（平成 15）年、横須賀市文化会館で「最上壽之展」を開催。</p>	
作品名	自画像（油彩）	
制作年	1950年（昭和 25年）	
技法材質	油彩・画布	
寸法 (cm)	53.0×45.0	

作家名	深澤孝哉（ふかざわ たかや） 1937（昭和12）～ 神奈川県横須賀市に生まれる。1961（昭和36）年東京藝術大学油画科を卒業、大学では林武に師事。1965年渡仏、フランス国立パリ高等美術学校でモーリス・ブリアンションに師事。1969年サロン・ドートンヌ選択展に招待出品、同校を修了し帰国。1971年第47回白日会展に初出品し、会員となる。1973年第8回昭和会展で昭和会賞を受賞。1978年第54回白日会展で内閣総理大臣賞を受賞。後進の指導に努め、絵画技法書の著作も多数ある。	
作品名	熱海風景（油彩）	
制作年	1961年（昭和36年）	
技法材質	油彩・画布	
寸法 (cm)	73.0×60.6	
作品名	抽象（鳥） （油彩）	
制作年	1964年（昭和39年）	
技法材質	油彩・画布	
寸法 (cm)	38.3×45.5	

作家名	<p>矢崎千代二（やざき ちよじ） 1872（明治5）～1947（昭和22）</p> <p>神奈川県横須賀村汐入に生まれる。1887（明治20）年曾山幸彦の画塾に入門し、洋画の手ほどきを受ける。1894年黒田清輝、久米桂一郎の天真道場に入る。1897年東京美術学校西洋画科選科に入学、黒田清輝に師事し、白馬会にも出品を重ねる。1905年臨時博覧会事務局の美術部員として渡米、セントルイス万国博覧会事務局に勤める。この後、アメリカからヨーロッパに渡り、1909年帰国して滞外作品による個展を開いた。1918（大正7）年の中国旅行をきっかけとしてパステル画に転向、その後インド、ヨーロッパ、南米、東南アジアの各地を巡遊しながら制作した。1927（昭和2）年日本パステル画会を創設、日本におけるパステル画の普及に努める。1947年北京で死去。</p>	
<p>作品名</p> <p>制作年</p> <p>技法材質</p> <p>寸法 (cm)</p>	<p>上海風景（油彩）</p> <p>1918年（大正7年）</p> <p>油彩・画布</p> <p>33.2×45.2</p>	
<p>作品名</p> <p>制作年</p> <p>技法材質</p> <p>寸法 (cm)</p>	<p>漁舟（素描）</p> <p>1928年（昭和3年）</p> <p>パステル・紙</p> <p>24.0×33.0</p>	




作品名	サンパウロ郊外 (素描)	
制作年	1930年(昭和5年)	
技法材質	パステル・紙	
寸法(cm)	24.0×33.0	
作品名	五月広場とブエノス 本寺(素描)	
制作年	1931年(昭和6年)	
技法材質	パステル・紙	
寸法(cm)	24.0×33.0	
作品名	ジャワの踊り(素描)	
制作年	1934年(昭和9年)	
技法材質	パステル・紙	
寸法(cm)	32.8×24.2	
作品名	海岸風景(素描)	
制作年	1935年(昭和10年)	
技法材質	パステル・紙	
寸法(cm)	24.0×32.8	

作品名	箱根風景（素描）	
制作年	1935（昭和10）年頃	
技法材質	パステル・紙	
寸法 (cm)	45.2×33.2	
作品名	ベレン風景（素描）	
制作年	1930年（昭和5年）	
技法材質	パステル・紙	
寸法 (cm)	24.3×33.1	
作品名	ゴンザガ風景（素描）	
制作年	1931年（昭和6年）	
技法材質	パステル・紙	
寸法 (cm)	24.3×33.4	

作家名	<p>中西利雄（なかにし としお） 1900（明治 33）～1948（昭和 23）</p> <p>東京に生まれる。1922（大正 11）年東京美術学校西洋画科に入学。同年日本水彩画会に初入選。在学中の 1924 年第 5 回帝展に初入選し、翌年第 12 回光風会展で光風会賞を受賞。1927（昭和 2）年同校を卒業し、翌年渡仏。1930 年サロン・ドートンヌに出品。1931 年帰国。翌年第 19 回日本水彩展に滞欧作品を特別陳列。1934 年第 15 回帝展に《優駿出場》を出品し、特選となる。1936 年小磯良平、猪熊源一郎、佐藤敬、脇田和らと新制作派協会を創立。1942 年『水彩一技法と随想』を発刊。1945～47 年には神奈川県津久井郡沢井村に疎開。1948 年死去、翌年第 13 回新制作協会展に遺作 22 点が陳列される。</p>	
作品名	<p>パリ風景 （水彩）</p>	
制作年	<p>1928-31 年 （昭和 3-6 年）頃</p>	
技法材質	<p>水彩・紙</p>	
寸法 (cm)	<p>39.7×50.8</p>	
作品名	<p>風景（長崎） （水彩）</p>	
制作年	<p>1936 年 （昭和 11 年）頃</p>	
技法材質	<p>水彩・紙</p>	
寸法 (cm)	<p>38.0×54.0</p>	

作家名	<p>谷内六郎（たにうち ろくろう） 1921（大正 10）～1981（昭和 56）</p> <p>東京に生まれる。1935（昭和 10）年駒沢尋常小学校を卒業後、輸出用クリスマス電球の工場、看板屋、図案社などの仕事を経験する。この頃から漫画や似顔絵を新聞や少年雑誌に投稿し始め、『キング』『報知新聞』などに掲載される。1955 年「行ってしまった子—大人の絵本・幼き日の夢より—」と題した一連の作品で第 1 回文藝春秋漫画賞を受賞し、『谷内六郎画集』が文藝春秋社から刊行される。翌年から『週刊新潮』の表紙絵を担当。挿絵をはじめ、本の装丁や詩作を手がけ、幅広く活動する。また、広島のとけのこ学級や静岡のねむの木学園などとの交流を通じ、福祉活動にも力を注ぐ。家族とともにたびたび観音崎を訪れ、1974 年には、横須賀市鴨居にアトリエを構えた。</p>
-----	--

作品名／制作年／技法材質／寸法 (cm)

<p>外国模様 （水彩）</p> <p>1960 年（昭和 35 年）頃</p> <p>水彩・紙</p> <p>26.8×27.4</p>		<p>里の子 （水彩）</p> <p>1960 年（昭和 35 年）頃</p> <p>水彩・紙</p> <p>26.9×27.5</p>	
<p>雨ふり （水彩）</p> <p>1960 年（昭和 35 年）頃</p> <p>水彩・紙</p> <p>26.8×27.4</p>		<p>越後獅子 （水彩）</p> <p>1960 年（昭和 35 年）頃</p> <p>水彩・紙</p> <p>26.9×27.6</p>	